

サモアにつたえよう！ サモアをつたえよう！

学 校 名：大阪市立南住吉小学校

指導時数：10 時間

名 前：東出 祥子

対象学年：小学校 2 年生

実践教科：道徳・図工・音楽

対象人数：116 人（29 名× 4 クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

「サモアってどんな国だろう？」そういうワクワク感が常に頭の中にありました。インターネットや本などではまだまだ情報の多くない南の島、サモア。実際に行ってみることによって、伝統的なポリネシアン文化の素晴らしさ、どこまでも広がる美しい海や風に揺れるやしの木、南国の花々の美しさ、自給自足な生活の地に足の付いた素朴な生活、日本の子どもたちと同じように元気に外で遊ぶ子どもたちの姿を肌で感じ、サモアが大好きになりました。そして、伝統と文明社会（グローバル経済）の間の葛藤、援助される国の課題なども人々との関わりの中で感じることができました。今回は、サモアの学校で授業をさせて頂いたので、日本とサモアの子どもたちを巻き込んだ授業をすることができ、本当に貴重な経験をさせていただいたなと思っています。

2. カリキュラム

（1）実践の目的・背景

本学級の児童は、外国についての知識を得る生活経験がまだまだ少ないため、海外の事に興味を持つ子はほとんどいなかった。知っている国というのはメディアによく取り上げられる先進国がほとんどであり、知っている外国語は外国語活動で使う英語だけで、世界の人々はみんな英語を話していると考えている子もいた。

これらの児童に対して、日本や日本となじみの深い先進国とは違った文化を持つ国、サモアを紹介し、世界にはいろいろな文化があり、それぞれに素晴らしさがあることを伝え、海外に興味を持てるようにしたい。また、開発途上国について初めて知る児童も多いため、ネガティブなステレオタイプを植えつけてしまわないように気をつけた。そのために、今回は「友だち」をキーワードに授業を行い、子どもたちがサモアの子どもたちにメッセージを送ることでサモアの子どもたちを身近に感じることができるようにした。また、サモアの開発課題を伝える際には、日本にも問題があることも同時に伝えたり、日本からの援助について伝える際には、「友だちが困っていたら助ける」というアプローチをとることにした。

また、本学級の児童の中には、自主的にいろんな活動をしようという児童が数名いる。今回、単元を設定する上で、彼らの意見も取り入れ、子どもたちが受け身にならず、自分たちで考えながらサモアについて学べるようにした。

（2）授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2 時限目 サモアの子と友だちに なれるかも？① ＊サモアという国があることを知る。	● サモアの地理的位置を確認する。 ● サモアの自然や人々の写真を見る。 ● サモアの子どもに教えてあげたい日本とは何かを考える。	● Google Earth ● 写真 ● ワークシート

3・4時限目 サモアの子と友だちになれるかも？② ＊サモアの子どもたちに伝えたいことを紙芝居に描く。	●日本の国を紹介する紙芝居を作る。	●画用紙 ●クレパス
5時限目 届いたよ！ みんなのメッセージ！ ＊自分たちのメッセージが伝わり、サモアの子が返してくれたことを実感する。	●子どもたちが作った紙芝居を使って、サモアでの授業がされている写真を見る。 ●サモアの子どもたちが描いてくれたサモアを紹介する絵を見る。	●写真 ●サモアの子が描いた絵
6時限目 Tarofa, Samoa! ～サモアにバーチャルツアーへ行こう！～ ＊サモアの文化について知る。	●サモアの地理的位置を確認する。 ●サモア語を話してみる。 ●サモアの遊びを体験する。 ●アヴァの儀式を体験する。 ●自給自足について考える。 ●サモアの生活クイズをする。	●パワーポイント（ビデオ付） ●Google Earth ●ワークシート ●ラバラバ ●アヴァの儀式の杯 ●アヴァの粉末
7・8・9時限目 おうちの人に伝えよう！ ＊参観日に、保護者に伝えることを考える。	●おうちの人に教えてあげたいことは何かを考え、呼びかけを練習する。 ●サモア島の歌のふりつけを考え、練習する。	●オルガン
10時限目 サモアのちょっとこまったこと ＊サモアの開発課題とサモアで活躍する日本人の存在について知る。	●サモアにも問題があることを知る。 ●なぜ国際協力が必要なのか考える。 ●サモアで活躍する日本人からのメッセージビデオを見る。 ●青年海外協力隊員経験者の方の話を聞く。	●パワーポイント（ビデオ付） ●ワークシート

3. 授業の詳細

1・2時限目：サモアの子と友だちになれるかも？①

ねらい…サモアという国があることを知る。

サモアの子どもたちに伝えたいことを考える。

◆内容◆

- ① サモアの位置を確認する。
- ② サモアの写真を見る。
- ③ サモアの子どもたちに伝えたい日本を考える。

ポイント！

- ・担任がサモアで授業をすることを海外研修前から伝え、みんなの思いが本当にサモアの子どもたちに伝わることを強調する。
- ・子どもたちの普段の生活を伝えるだけでなく、日本のいいところ、悪いところに分けて考えさせ、両方伝えられるよう指導する。
- 日本を客観的に見る経験は初めてなので、指標を与えることで考えやすい。
- 悪いところをあえて考えさせるのは、後半のサモアの問題を考える時に、サモアにだけ問題があると思わせないため。

児童の
反応

- ▶ 日本のいいところ：サモアと同じ島国である。高い建物がある。ゲームやアニメがある。給食がおいしい。学校にプールがある。夏祭りにはゆかたを着る。
- ▶ 日本の悪いところ：宿題が多い。戦争があった。地震や津波が起こった。
- ▶ 子どもたちからのメッセージ：サモアのことをもっと知りたいな。サモアのみんなと友だちになりたいな。
- ▶ 戦争について、子どもたちの間で議論があった。
「戦争についてサモアの子に教えてしまったら、サモアの子が真似をしたら困るからしない方がいい。」
「日本は戦争をしたけど、それをあかんっていうことを教えたら、サモアの子にもいいと思う。」
- 多数決を出したところ、ほぼ半数に意見が分かれた。「戦争反対！（NO WAR!）」と書いたらどうかと担任が提案したら、それでいいという結論が出た。

3・4時限目：サモアの子と友だちになれるかも？②

ねらい…サモアの子どもたちに紙芝居を作る。

◆内容◆

① サモアの子どもたちに紙芝居を作る。

👉👉がポイント！

- 前時に出た意見を担任が1つのストーリーにまとめ、子どもに了承を得て作成した。
- 絵だけでは伝わりにくいと思ったので、そのことに関する英単語を書くことにした。サモアで授業をする際は、サモアの子どもたちがその文字を読んでくれたので、内容が伝わりやすかったように思う。



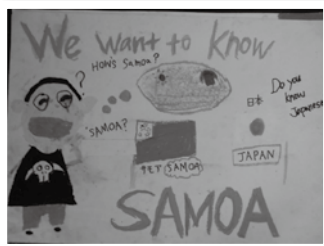
みんなで作った紙芝居1

児童の
反応

- ▶ 「ポケモンって知ってるかなあ？」
- ▶ 「日本ってどんな形ですか？」
- 2年生では、まだ地図を学習していない。日本地図を配布すると、丁寧に写していた。
- ▶ 「日本語を知ってますか？っていうのを英語で書きたいので教えてください。」
- 自分たちの考えたことを英語で書きたいと思う子もいた。まだ習っていないアルファベットを丁寧に写している子どもの姿があった。



みんなで作った紙芝居2



みんなで作った紙芝居3



サモアの子に届きました！

5 時限目：届いたよ！みんなのメッセージ！

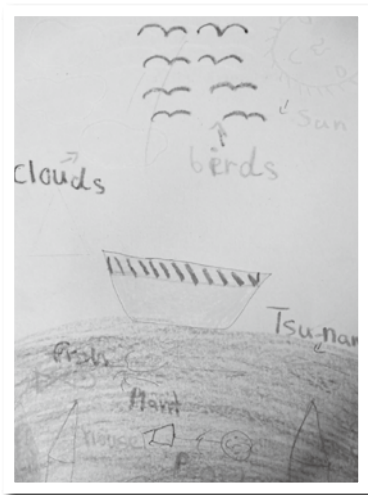
ねらい…児童が書いたメッセージが、サモアの子どもたちに届いた事を知り、サモアに親近感を持つ。

◆内容◆

- ① サモアでの授業の写真やビデオを見る。
- ② サモアの小学生が描いた絵を見て、サモアはどんな国かを想像する。

児童の感想

- ▶ サモアの子が、わらっていてうれしかった。
- ▶ 本当にサモアの子が来てくれてうれしかった。
- ▶ サモアの子は絵がうまいと思いました。海がきれいなんだなと思いました。
- ▶ サモアにもつなみがくることをはじめてしました。



サモアの子どもが描いた絵

6 時限目：Tarofa, Samoa! ～サモアにバーチャルツアーへ行こう！～

ねらい…サモアの文化や人々の暮らしについて知る。

◆内容◆

- ① こどもパスポートを用意する。
- ② サモアはどこでしょうクイズや、Google Earth を使ってサモアの地理的位置を確認する。
- ③ ホームステイ先の生活を疑似体験する。
 - ・ サモア語で自己紹介
 - ・ 子どもの遊び
 - ・ アヴァの儀式
- ④ ウム料理から自給自足について考える。
- ⑤ サモアの生活クイズ
- ⑥ サモアの学校の様子を紹介する。



授業の様子

👉👉がポイント！

- ・ 海外研修中、サモアの子どもたちが遊んでいる姿や、サモア語で自己紹介をしてもらったビデオを撮った。そのビデオをパワーポイントに埋め込み、サモアの元気な子どもたちの姿を見ながらみんなでマネをしてみるなど、サモアの子どもたちに親近感を持てるようにした。
- ・ 全体的にクイズ形式でパワーポイントを進め、サモアの人々の様子を予想しながら授業を進めていった。

児童の感想

- ▶ サモアの家にかべがないのはびっくりしました。
- ▶ サモアの子は、えい語もサモア語も話せてすごいなと思いました。
- ▶ ぶたをそだててころすのはかわいそうだと思ったけど、わたしたちもころしてたべているので、しかたがないと思います。
- ▶ サモアの子といっしょにあそびたいです。
- ▶ サモアは日本とぜんぜんちがうのでびっくりしました。もっといっぱい知ったり、サモアの人に会ってみたいです。

7・8・9時限目：おうちの人に伝えよう！

ねらい…参観日に向けて、おうちの人に伝えたいサモアについて考え、発表の練習をする。

◆内容◆

- ① 今まで習ったサモアのことで、おうちの人に教えてあげたいことを考える。
- ② よびかけ・歌を練習する。

児童の反応

- ▶ 「サモア島の歌」を歌うことに決まったが、ある児童が振り付けをつけてやりたいと提案した。その児童が振り付けを考えてみんなに教え、練習した。

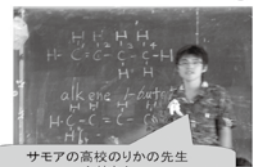
10 時限目：サモアのちょっとこまったこと（授業参観）

ねらい…美しい国、サモアにも問題があることを知り、それを解決するためにがんばっている日本人がいることを知る。

◆内容◆

- ① おうちの人にサモアのことを伝える。（よびかけ・サモア島の歌）
- ② サモアの人困っていることとは何かを考える。
- ③ サモアで活躍している日本人がいることを知る。
 - ・ タファイガタゴミ処理場：築地さん（JICA 専門家）
 - ・ ファレアタ中高等学校：小林さん（青年海外協力隊）
- ④ なぜ日本人がサモアの人を助けるのかを考える。
- ⑤ 質疑応答（ゲスト：JICA 関西・中西さん 青年海外協力隊経験者）

サモアでがんばる日本人②



サモアの高校のりかの先生
小林さん
青年海外協力隊員

青年海外協力隊からのメッセージ

👉 ココがポイント！

海外研修中に、現地の JICA 専門家の方々や青年海外協力隊の方々子どもたちへのメッセージをビデオで撮影させていただいた。サモアで実際に活躍されている姿を見ることで、子どもたちにも伝わりやすかったように思う。

児童の感想

- ▶ わたしもサモアに行きたいです。
- ▶ サモアがごみの島になるのは、いやだなと思いました。きれいにするのを手伝いたいです。
- ▶ 地きゅうはつながっているって始めて知りました。
- ▶ わたしたちは外国から食べ物とかガスとかいろんなものをもらっていることを知って、いつもむだづかいをしていることをばからしく思いました。
- ▶ 日本の人もサモアの人も地球の人みんなとなかよくなりたいたいと思いました。
- ▶ このべんきょうをして、しょうらい、できたらきょう力したいと思いました。

4. 成果と課題

1 番の成果は、子どもたちが担任が想像していた以上にサモアのことに関心を持つことができたことである。サモア語であいさつをし合ったり、自主的にサモアについての新聞を書く児童がいたり、図書の時間にオセアニアやサモアについての本を見つけ、友だちと一緒に読む姿が見られるなど、授業以外にもサモアのことを話題にする児童が多かった。その理由として、自分たちが考えたことを伝えるという作業があったからではないかと思う。また、今回の授業では、児童の意見や提案を多く取り入れたので、紙芝居や発表ができた後には達成感や自信を持つ児童がたくさんいた。

一方で、サモアの開発課題や国際協力について伝えることはとても難しく、2 年生には理解できなかったり、想像がしにくかったように思う。開発課題について体験的に伝える授業も考えてはいたが、2 学期には大きな行事が続き 4 クラスで行うスケジュールを立てられなかったため、実現ができなかった。また、担任自身が負のステレオタイプを植え付けないように、どう開発課題について伝えるかに迷いがあった。この反省を元に、来年度以降も国際協力の重要性を伝える授業を継続していきたい。

参考ホームページ 愛知県国際交流協会「わたしたちの地球と未来」
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/PDF/H23/Samoa.pdf>
 (2012 年 7 月アクセス)

資料

